

環境経営レポート

令和6（2024）年度版

活動期間（2024年5月～2025年4月）



株式会社 山下製作所

発行日：2025年 6月 20日

改定日：2025年 9月 16日

エコアクション21
認証番号 0005032

承認	作成
山下	矢野

目次

	P
1 会社組織の概要	1
2 対象範囲	2
3 実施体制	3
4 環境経営方針	4
5 環境経営目標（短・中期目標）	5
6 環境経営計画	6
7 環境経営目標に対する実績と評価 （参考：環境負荷の実績値の推移）	7 7-2
8 環境経営計画と取組内容の結果と評価、並びに今後の取組	8
9 環境関連法規の遵守状況確認、並びに違反、訴訟の有無	9
10 代表者による全体の評価と見直し・指示	10
□以下 補足参考	
今期の環境改善への取り組み、およびこれまでの環境改善への取り組み	11,12
環境上の緊急事態の想定、予防策	13
緊急環境訓練の実施状況	14

1. 会社組織の概要

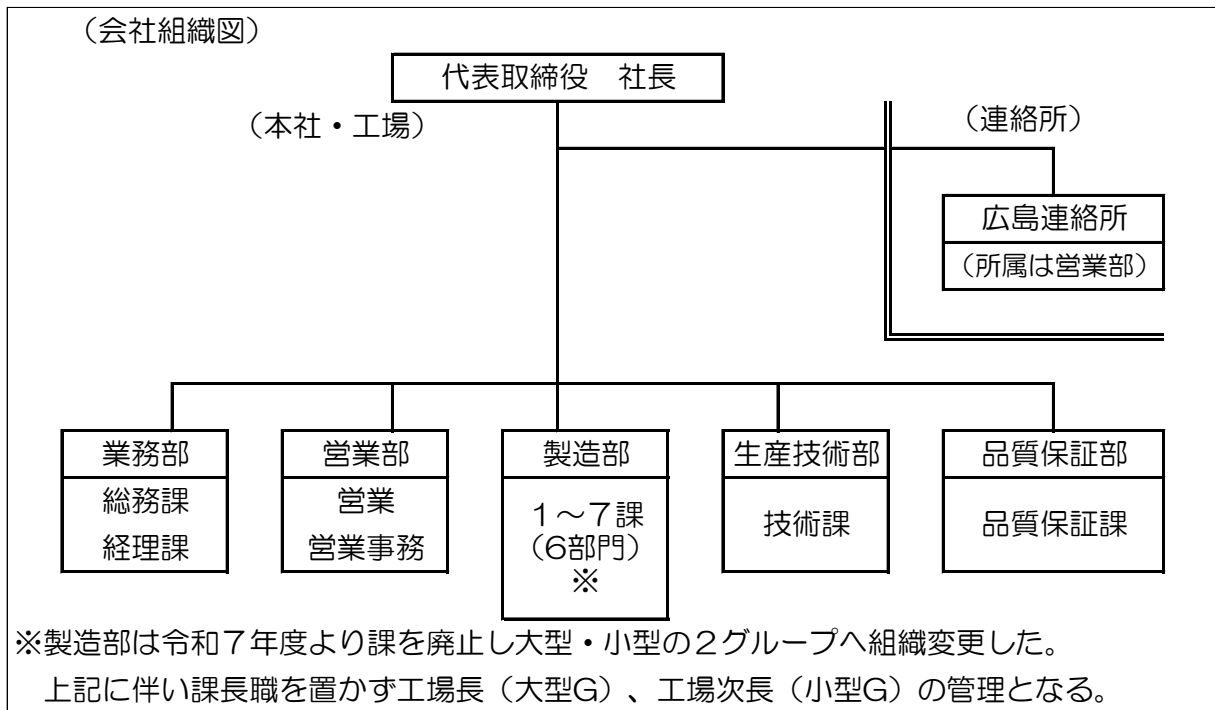
- 事業所名 株式会社山下製作所
- 代表者 山下 洋司
- 設立年月日 昭和32（1957）年5月1日 創業
- 所在地、連絡先 〒457-0802
愛知県名古屋市南区要町2丁目15番地の1
TEL 052-612-2555
FAX 052-612-6565
- 事業内容 大小各種研削盤による精密研削加工、
治工具・型・各種精密機械部品の製作、
自動化・省力化機器の製作
- 事業規模 資本金 1000万円
売上高 10億3272万円（2024年度実績）
（令和6年4月21日～令和7年4月20日）
従業員 71名（令和6年6月1日現在）
延べ床面積 4822㎡
- 環境管理責任者 総務課 矢野芳隆
E-mail yano@yamashita-ss.co.jp
- EA21事務局（管理責任者兼務）

2. 対象範囲

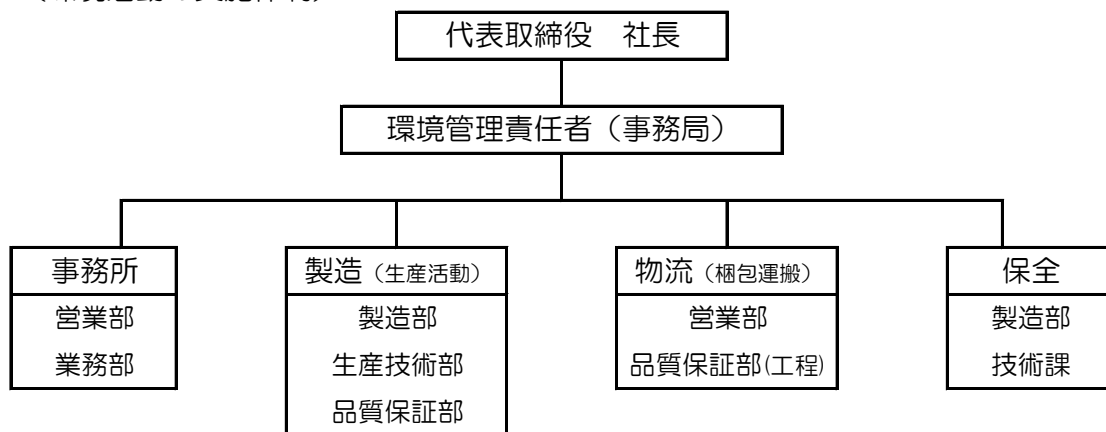
認証・登録範囲	全組織、全活動（本社、広島連絡所）
レポートの対象期間	2024年5月～2025年4月
レポートの発行日	2025年6月20日
次回のレポートの対象範囲	2025年5月～2026年4月
次回のレポートの発行予定日	2026年6月20日

3. 実施体制

・組織の実施体制



(環境活動の実施体制)



・役割、責任、権限

職名	役割・責任・権限
代表者	経営責任者として統括的な責任と権限を持ち、環境経営に関する方針を設定する。環境責任者を任命し、環境に於ける統括的な活動の指示を行うと共に結果の報告に基づいて本システムの取組み状況の評価・見直し等必要な指示をする。
環境管理責任者	EMSの構築・運用の責任と権限を持つ。EMS計画に於ける取組み状況を把握し、代表者に報告すると共に必要な指示を仰ぐ。環境に関する教育計画を立て、訓練を実施する。
事務局	管理責任者が兼務し環境にかかわる業務を取り仕切る。
各部門長	管理責任者の指示により、自部署に於けるEMSの構築・運用に従事する。年間目標を立て運用実績を記録し、不足不備があれば改善・修正を実施する。
一般社員	各部門長の指示のもと、EMS内容を理解し担当する運用に従事する。

4. 環境経営方針

<基本理念>

当社は「人を育て、活力ある職場を造り、一流の仕事をする」の方針のもと、事業活動により生産する精密機械部品等を通じ、地球環境・資源の有効利用、地域社会との共存と調和を重点課題と認識し、企業力向上のため全員参加で環境経営活動を推進します。

<経営における課題とチャンス>

当社は高い精度を保証しながら、小物から大物まで多種多彩な研削加工を実践し、難易度の高い複雑な加工要求にも対応します。

高精度の製品を提供する事で省力化や省人化等にも貢献し、最終的には顧客の環境経営にも寄与出来ると考えています。

高精度を維持するための技術を維持することと、作りこみの過程で発生する資源の消費やエネルギーのロスを抑えることを両立することで顧客満足を確実に維持することを継続的な課題ととらえ、日々の改善に取り組んでゆきます。

<活動方針>

1. 次の事項について具体的な目標を設定し、継続的な改善活動に取り組みます。
 - ① エネルギー及び諸資源の削減により、二酸化炭素の排出量削減に努めます。
 - ② 水資源のムダを無くし消費削減を積極的に実施します。
 - ③ リサイクル活動を積極的に実施し、廃棄物の削減に努めます。
 - ④ 化学物質削減を積極的に取組み、環境リスクの削減に努めます。
 - ⑤ 環境に関する法規類を遵守します。
 - ⑥ グリーン調達を積極的に推進します。
 - ⑦ 5S活動を積極的に取組み、環境整備に努めます。
 - ⑧ ISO9001を基軸に、数値目標を設定し不良削減に取り組みムダ排除に努めます。
 - ⑨ 精密研磨により高精度製品を顧客に提供する事で、省エネ等に寄与して行きます。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを理解し順守します。
また、該当する事項の更新内容を確認し必要に応じて変更します。
3. 環境教育を実施し全社員の環境意識の向上を計るとともに、環境レポートを作成し広く社会に環境活動を公開します。

制定 2009年5月12日

改訂 2021年4月21日

株式会社山下製作所

代表取締役 山下 洋司

5. 環境経営目標（短・中期目標）

- 2023年度を基準に、2023年度から2026年度の3年間には以下の目標で取り組む

各年度は5月～4月とする

取組項目	単位	基準年度 2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
削減率	%	—	前年度実績比-1%		
二酸化炭素排出量の削減					
CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	641,734	2023年度比 -1%	2024年度比 -1%	2025年度比 -1%
対売上比・原単位	CO ₂ /百万円	667			
電気使用量	kWh	1,530,264	2023年度比 -1%	2024年度比 -1%	2025年度比 -1%
ガソリン使用量	ℓ	3,816			
軽油使用量	ℓ	12,564			
灯油使用量	ℓ	2,463			
都市ガス	m ³	273			
廃棄物削減					
一般廃棄物	kg	2,625	2023年度比 -1%	2024年度比 -1%	2025年度比 -1%
産業廃棄物	kg	55,194			
水使用量の削減					
水使用量	m ³	932	2023年度比 -1%	2024年度比 -1%	2025年度比 -1%
環境配慮の推進					
客先流出不良数	件	71	2023年度比 -1%	2024年度比 -1%	2025年度比 -1%
再生研磨品受注推進	個	1,272	2023年度比 +1%	2024年度比 +1%	2025年度比 +1%

※ 2023年度の売上高は962百万円

※ 電力の排出係数は2021年度の中部電力の調整後係数（0.388 kgCO₂/kWh）とした

※ 化学物質（PRTR対応物質）の使用はありません

6. 環境経営計画

項目	環境経営計画	担当部門	取組内容	スケジュール
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	全社	二酸化炭素排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 5月に環境経営方針を通達（年3回経過報告）
	電力使用量の削減	製造部 生技部 品証部	①非稼働（未使用）時の電源OFFの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 空調機器の運転は夏季（7、8、9月）、冬季（12、1、2月）の電力の実績値を確認しながら毎月適切に管理・運用する 不要照明の消灯は通年実施 OA危機の節電は通年実施
			②不要時の電灯OFFの徹底	
			③空調温度管理（夏、冬設定温度の適正化）	
③コンプレッサーの稼働時間管理（短縮）				
④不良品削減による再加工電力の削減				
⑤省エネ型照明・機器、工作機化に導入				
ガソリン・軽油等の使用量削減	営業部 業務部	①エコドライブの実践	<ul style="list-style-type: none"> 「エコドライブ10の勧め」を月初に唱和 毎日の車両運行記録の確認 	
		②アイドリングストップの徹底		
		③運行ルート最適化		
		④庸車及び宅配車の有効活用		
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	事務所	<ul style="list-style-type: none"> ①ごみの分別徹底（分別ボックス設置） ②資源化促進（両面コピー、裏紙使用） 	<ul style="list-style-type: none"> もったいない運動の通年実施 定期的な巡回による指導・周知
	産業廃棄物の削減	製造部 生技部	①廃棄物の再利用、有効活用の推進（リユースの促進）	<ul style="list-style-type: none"> 3R活動の通年実施（リデュース、リユース、リサイクル）
			②廃棄物の分別徹底（リサイクルの促進）	
③クーラント・切削油の入れ替えルールの明確化と運用管理				
総排水量	水使用量の削減	全社	①節水表示	<ul style="list-style-type: none"> 節水取組の水平展開と活動の通年実施 設備保全と老朽箇所の調査
			②洗車、散水時の節水	
			③蛇口を開いたままでの作業禁止	
			④漏水点検	
環境配慮の推進	客先流出不良の削減	品証部 製造部	<ul style="list-style-type: none"> ①工程内不良の削減 ②不良品の解析とフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 不良の解析と再発防止活動の通年実施 若年者への技術指導と研修教育
	再生研磨品受注の推進	営業部	修理品、修正品の受注推進	<ul style="list-style-type: none"> 顧客への働きかけ、企業PR活動

7. 環境経営目標に対する実績と評価

評価：○目標達成 △前年度比削減 ×目標未達成

取組項目	単位	基準年度 2023年度	2024年度 目標	2024年度 実績	目標比	評価
二酸化炭素排出量の削減						
CO ₂ 総排出量（電力+化石）	kg-CO ₂	641,734	635,317	702,607	10.6%	×
対売上比・原単位	CO ₂ /百万円	667	661	680	3.0%	×
電気使用量	kWh	1,530,264	1,514,961	1,677,167	10.7%	×
CO ₂ 総排出量（電力）	kg-CO ₂	593,742	587,805	650,741	10.7%	×
ガソリン使用量	ℓ	3,816	3,778	3,719	-1.6%	○
軽油使用量	ℓ	12,564	12,438	13,546	8.9%	×
灯油使用量	ℓ	2,463	2,438	3,090	26.7%	×
都市ガス使用量	m ³	273	270	275	1.8%	×
CO ₂ 総排出量（化石）	kg-CO ₂	48,140	47,659	51,866	8.8%	×
廃棄物削減						
一般廃棄物	kg	2,625	2,599	2,577	-0.8%	○
産業廃棄物	kg	55,194	54,642	54,067	-1.1%	○
水使用量の削減						
水使用量	m ³	932	923	987	7.0%	×
環境配慮の推進						
客先流出不良数	件	71	70	127	80.7%	×
再生研磨品受注推進	個	1,272	1,285	1,291	0.5%	○

結果/実績に対する評価コメント

CO₂総排出量は基準年比+10.6%、対売上比の原単価では+3.0%の増加であった。
そのうち電気使用量は+10.7%、化石燃料は+8.8%の増加だった。
産業廃棄物排出量は目標値とほぼ同量であった。

増加の原因としては、酷暑の空調消費電力の増加に加え、生産が増えたことによる電力消費量の増加があった。今年度は、常に省エネ、省資源を意識した行動を促す。また中期目標である2024年から2026年の3年間の実績値の推移を見ながら、身の丈に合った適切な目標値の設定についても検討する。

7. (参考) 環境負荷の実績値の推移 (2019年から2024年)

対応期間:

4月21日～翌年4月20日

過去の履歴

(基準年)

【1期目】

主項目	記	個別対象項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素	入①	A 購入電力	kwh	1,196,987	1,400,291	1,501,084	1,530,264	1,677,167
		B 化(ガソリン)	L	4,300	4,357	4,520	3,818	3,719
		C 化(軽油)	L	11,915	12,996	12,685	12,563	13,546
		D 化(灯油)	L	2,578	2,762	2,166	2,463	3,090
		E 化(都市ガス)	m ³	321	304	300	273	275
	⑥-1	F 購入電力(※)	kg-co2	464,431	543,313	688,998	593,742	650,741
	⑥-2	G 化石燃料(※)	kg-co2	47,974	51,326	49,406	48,140	52,022
出⑥	H (電力+燃料)	kg-co2	512,405	594,639	738,403	641,883	702,763	
⑥指	I (kg-co2/売上高)	(指標)	593.75	649.17	787.21	667.24	680.31	
生産	入②	J 資源投入量	個	148,168	206,072	165,401	131,584	122,380
		K 循環資源量	個	1,169	1,151	1,269	1,272	1,291
	出⑤	L 受注個数	個	148,168	206,072	165,401	131,584	122,380
		M 再製品	個	1,169	1,151	1,269	1,272	1,291
		N 不良件数	個	90	75	54	71	127
		O グリーン購入	個	1,185	1,038	1,139	1,066	673
		P 売上高	百万円	863	916	938	962	1,033
水資源	入③	R 上水	m ³	912	903	912	932	987
	③-1	S 従業員数	人	77	73	70	72	71
	③指	T (m ³ /人)	(指標)	11.84	12.37	13.03	12.94	13.90
	出⑨	U 下水道	m ³	912	903	912	932	987
廃棄物	出⑦	V 産業廃棄物排出量	t	57.030	56.590	58.480	55.190	54.067
	⑦指	W (kg/売上高)	(指標)	66.08	61.78	62.35	57.37	52.34
	出⑧	X 有価物	t	7.810	7.780	9.740	3.950	3.198
化	入④	Y 排出量、移動量	kg	2010年12月をもってPRTR法抵触製品の削減を完了した				0

【主項目(投入量・排出量等)】

① 総エネルギー投入量(A,B,C,D,E)

② 総物質投入量(J,K)

③ 水資源投入量(R)

③-1 生産・消費者(従業員)(S)

③指(指標)一人当たりの消費量(T)

④ PRTR法抵触化学物質

排出量・移動量(Y)

⑤ 総製品生産量又は総製品販売量(L,M,N,O,P)

⑥-1 電力(kg-CO2)(F) ⑥-2 化石燃料(kg-CO2)(G)

⑥ 温室効果ガス排出量(H)

⑥指(指標)CO2削減目標基準値(I)

⑦ (有価物を除く)廃棄物等の排出量・最終処分量(V)

⑦指(指標)売上金額比の廃棄物排出量(W)

⑧ 有価売却量(X) ※廃油は2012年途中から有価物

⑨ 総排水量(U)

指数 :	(年度)	2020	2021	2022	2023	2024
a 有価物引取量/売上高(X/P)		9.05	8.49	10.38	4.11	3.10
b 電力co2/売上高(F/P)		538.16	593.14	734.54	617.20	629.95
c 化石燃料co2/売上高(G/P)		55.59	56.03	52.67	50.04	50.36
d (b+c)合計値(H/P=I)		593.75	649.17	787.21	667.24	680.31

※ ⑥-1 電力の調整後排出係数 :0.388(kg-CO2/kwh) 中部電力ミライズ(2021年度実績)

注:係数統一のため、過去全ての年度にも適用

※ ⑥-2 化石燃料の排出係数 ガソリン:2.32 軽油:2.59 灯油:2.49 都市ガス:2.24

8. 環境経営計画 と取組内容の結果と評価、並びに今後の取組

◎：よくできた ○：まあまあできた △：あまりできなかった ×：できなかった

項目	環境経営計画	担当部門	取組内容	評価	評価コメント～今後の取組
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	全社	二酸化炭素排出量の削減	△	消費電力の大幅増が影響した。
	電力使用量の削減	製造部 生技部 品証部	①非稼働（未使用）時の電源OFFの徹底	○	社内意識は高く、節電、節約にも全社で協力している。猛暑対策も屋根や壁の遮熱処理により若干改善されたが年々上昇する夏期気温に対して今後も対策を継続してゆきたい。
			②不要時の電灯OFFの徹底	○	
			③空調温度管理（夏、冬設定温度の適正化）	○	
			③コンプレッサの稼働時間管理（短縮）	○	
			④不良品削減による再加工電力の削減	×	
	⑤省エネ型照明・機器、工作機化に導入	○			
	ガソリン・軽油等の使用量削減	営業部 業務部	①エコドライブの実践	○	短納期・特急対応、納期の重複による運搬先の調整など課題は残るが、若年者の教育を継続しつつ改善を図りたい。
			②アイドリングストップの徹底	○	
			③運行ルートの最適化	○	
④庸車及び宅配車の有効活用			○		
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	事務所	①ごみの分別徹底（分別ボックス設置）	○	分別・再利用の意識が定着し日々の無駄のない使用を心がけている。今後も継続してゆく。
			②資源化促進（両面コピー、裏紙使用）	○	
	産業廃棄物の削減	製造部 生技部	①廃棄物の再利用、有効活用の推進（リユースの促進）	○	ゴミの分別、再利用、有価対応廃品の相互利用などの意識は定着している。今後も継続してゆく。
			②廃棄物の分別徹底（リサイクルの促進）	○	
			③クーラント・切削油の入れ替えルールの明確化と運用管理	○	
総排水量	水使用量の削減	全社	①節水表示	○	節水、漏水意識などは高く、設備も定期的な修繕、保全を実施している。今後も継続し突然のトラブルにも備えて対応してゆく。
			②洗車、散水時の節水	○	
			③蛇口を開いたままでの作業禁止	○	
			④漏水点検	○	
環境配慮の推進	客先流出不良の削減	品証部 製造部	①工程内不良の削減	×	ベテランの退職、若年者のOJTや引継ぎなどで件数は悪化した。が今後も対策し改善してゆく。
			②不良品の解析とフィードバック	○	
	再生研磨品受注推進	営業部	修理品、修正品の受注推進	○	受注活動として継続する。

9. 環境関連法規の遵守状況確認、並びに違反、訴訟の有無

確認日 2025/6/6

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	担当部署	遵守評価	評価
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	総務	許可証の確認	○
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約（現地調査含む）	総務	許可証の確認	○
	・保管基準 廃棄物表示板（60cm×60cm以上の表示） 飛散・浸透防止、衛生管理	総務	表示状態の確認	○
	・マニフェストの交付 B2、D、E票の保管（5年間） 交付日から規定日まで返送されない場合は愛知県知事に報告する義務がある（B2票・D票は90日以内、E票は180日以内）	総務	日付、書類の整合性、返却状況の確認	○
	・産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出 （前年4月1日から本年3月31日迄のマニフェストの交付状況の報告）	総務	提出済み記録の確認	○
	・廃蛍光灯（少量水銀）の取扱い ・廃蛍光灯の運搬、中間処理の管理	総務	少量廃棄の状況確認	○
省エネ法 (1500kl/年以上)	非該当（原油390k1相当：2022年度試算）	総務	継続確認	○
騒音規制法	・特定施設の届出 ・地域別騒音基準の順守	製造	対象物の追加・更新の確認 実数値の法基準以下の確認	○
振動規制法	・特定施設の届出 ・地域別振動基準の順守	製造	対象物の追加・更新の確認 実数値の法基準以下の確認	○
水質汚濁法	・貯油施設の事故時の措置と届出 ・特定施設の届出	総務	設備変更、更新確認 対象無し	○
下水道法	・除害施設の設置 ・特定施設がある場合の水質測定	総務	排水、下水状況確認 異常なし	○
フロン排出抑制法 (H27,4施行)	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認	製造	回収記録、漏れ確認 異常なし	○
	・機器点検の実施（履歴の保存） ・フロン漏えいの防止および修理処置 ・履歴の保存	総務	検査点検記録、不備 確認状況問題なし	○
化管法 (PRTR制度)	・取扱い品の法令該当確認および管理 ・性状・取扱いに関する情報（SDS）の確認 ・使用量確認と集計（2010年以降対象使用量0） （年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合 第1種指定化学物質取扱者は移動量を報告）	製造・生技 製造・総務	法規更新など確認 SDSと現状の確認 社内全廃後の新規 購入時の確認	○
NO _x ・PM法	・対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用 ・特定自動車を30台以上使用の事業者は管理計画の提出	営業	車検状況等问题なし （8台につき対象外）	○
消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可申請 ・危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出 危険物対象物の管理（量、分類、保管施設）	製造・技術 総務	危険物保管庫、保管 状況、数量等確認し 問題なし	○
グリーン購入法 (調達基準)	・指定化学物質の管理（非使用、基準遵守等） 物品の購入の際、なるべく環境物品等を選択	製造	基準順守の状況確認、 購入時の確認	○
労働安全衛生法	・労働安全衛生法および労働安全衛生規則の遵守	安全・衛生 管理者、総務	法、規則の状況確認 更新など問題なし	○
その他の環境関連 要求事項	・顧客からの調査票等	総務・営業	環境関連調査票など 確認し問題なし	○

※ 上記に関する法改正で影響する項目なし

なお、2024年度中に環境関連法規制に関する訴訟、苦情はありませんでした。

記録の保管：環境事務局 情報の伝達：関連部署

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

総合評価

結果としては目標未達が多く、特に不良件数が大幅に上昇したことが痛い。売上が前年比プラスになったことは喜ばしいことではあるが、客先要求が年々上昇している。

当社は安く売る方針の仕事はしていないため、難度の高い仕事や緊急性の高い仕事など多少無理をしてでもこなしてゆかなければならない。

ベテランの退職に伴う若年者の育成も継続課題となっているため、当面は非効率な作業や損失が出るかもしれないが全員が意識を高く持って進めてゆけばいずれ結果が改善されると思われる。

今期の結果および来期に向けて検討すべき課題とチャンス

2024年度はCO2排出量、不良件数、水資源の消費増など厳しい1年だった。売上高は2023年度と比べ増加したが、その分の活動消費、および猛暑対応の空調電力消費の増加、短納期対応による残業など、売上や顧客要求の達成のため効率的でない場合もあった。全社的に環境貢献意識は高い様なので、長期的に考え、改善活動や若年者の育成が軌道に乗れば徐々に改善してゆくとと思われる。2025年度も売上、受注量の上乗せは必須課題ではあるが、製造部門の組織改革や設備更新など前向きな投資や改善を実施しており目標達成できる下地は整いつつある。経営資源を効率的に運用し改善や施策をすすめてほしい。

見直し内容

社内の稼働率改善、人材育成、新規客先の営業開拓などを進めつつ、節約、省エネなどの既存活動も継続する。

必要な設備や工具の更新、技能教育などに関しては積極的に進める。

特に営業部門の売上増と技能職の育成は急務なので優先的に進めてゆく。

環境改善の投資も経営状況を考慮しつつ積極的に進める。

見直し変更

環境経営方針	<input type="checkbox"/> 必要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要	
環境経営目標	<input checked="" type="checkbox"/> 必要	<input type="checkbox"/> 不要	※ 実態に合わせて見直し変更する
環境経営計画	<input type="checkbox"/> 必要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要	
実施体制	<input type="checkbox"/> 必要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要	

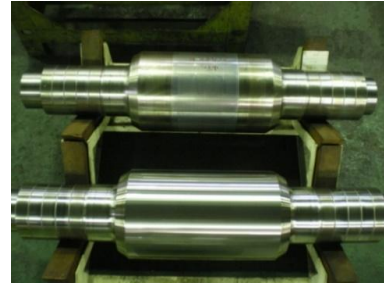
日付 2024. 6. 20
代表者名 代表取締役 山下洋司

□参考資料。今期の環境改善への取り組み、およびこれまでの環境改善への取り組み

- P R T R法抵触化学物質の全廃に成功（2010年12月達成以降継続）
社内使用製品にP R T R法に抵触する製品が3点あったが、インターネット
および取り扱いメーカー等にて情報を入手し、全て代用品への交換に
成功した。今後の新規品もS D Sにて確認後、非該当品を使用してゆく。

- 環境負荷の低減を考え、再研磨品を積極受注およびP Rの実施
新品を製作する場合は、素材や加工工数など
環境に与える負荷が大きいと考え、
修理品（再研磨品）の積極的な受注活動を実施中。

研磨前



研磨後

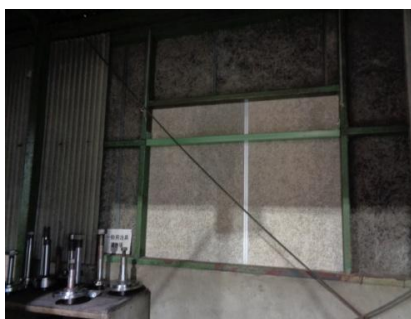


「ロール再研磨例」

- 工場外壁を遮熱仕様に更新（太陽光の遮熱と暖房・空調機の高効率化）（新規）
工場窓ガラスに遮熱フィルムを貼付け（太陽光の反射による遮熱効率アップ）



- 照明器具の更新にて蛍光灯からLED照明器具（一部センサー式）に変更（更新）
その際に発生した廃棄物の分別と再資源化（金属くず等）
一部窓に断熱材を貼付け（断熱と空調機の保温効果上昇）
（省電力および低発熱化を達成しつつ、照度アップによる現場環境の改善）

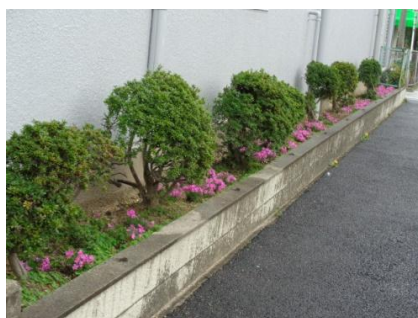


□参考資料。これまでの環境改善の取り組み

- デマンド（スマートメーター）とタイマー併用による休日の省電力化とピークカット（継続）



- グリーン活動の実施（5年目）



- 省エネ型営業車（アイドリングストップ車やハイブリッドカー）への更新（継続）



- フォークリフトの環境負荷軽減（継続）
バッテリー型フォークリフト（高効率型）



□補足 参考資料

(環境上の緊急事態の想定、予防策)

	状況・対応	工場	廃棄物置場	
1	地震発生時	緊急事態	1. 機械が倒れ油等の流出、および水道管の破裂による漏水等の発生が予想される。 2. 流出した油等の地中浸透による地下水汚染に繋がる可能性がある。	1. 廃棄物箱等の倒壊により、廃棄物の流出が起こる可能性がある。 2. 設置箱の倒壊により、油が漏れて下水及び地下水汚染に繋がる可能性がある。
		予防策	1. アンカー等にて倒壊防止をする。 水道に関しては埋設管の元栓を締める。 2. ウエスや吸着材にて油を吸収し、大量の場合は土嚢等準備し流出防止をする。	1. 箱に蓋を取付ける。また背丈や重心の低い箱に変更し倒れにくくする。 2. 周囲に倒れ防止の箱を設置し流出を防止する。
		対応策	1. 転倒が起きた場合、ウエス・吸着材や土嚢などによりせき止める。 2. 被害状況を確認し、修理業者やメーカーに連絡し復旧対策を打ち合わせる。	1. 従業員により箱の復旧や補修を行う。 2. 倒壊や流出が起きた場合、油吸収マットや土嚢などにより雨水路への流出を防ぎ流出油などの液体は社内バキューム等により回収する。
2	火災発生時	緊急事態	1. 保管している油に引火し、他への延焼の可能性はある。 2. 保管している油類の延焼により爆発等の危険がある。	1. 廃油等への延焼により煤煙の可能性はある。 2. 廃油に引火し他への延焼が考えられる。
		予防策	1.2. 保管庫に一括保管し、火気厳禁の表示と換気を行い鍵を掛け火気発生を防ぐ。また消火器の適正な設置と管理を行う。	1.2. 近くに燃える物が置かないなど隔離して地震発生予防策同様の処置をする。付近の消火設備の位置を従業員に周知して災害時の対応を理解させる。
		対応策	1.2. 引火が確認された場合、小規模の場合は自衛消防隊が消火器等で消火活動を実施する。同時に火災状況により即消防署への通報と従業員の避難を実施する。	1.2. 引火が確認された場合、小規模の場合は自衛消防隊により消火器等での消火活動を実施する。同時に火災状況によっては、即消防署への通報と従業員の避難を実施する。
3	大雨、台風時	緊急事態	1. 窓ガラス等の破損による飛散等の発生。 2. 建屋への水の流入による油等の流出の可能性はある。	1. 廃油等の保管箱が倒壊し油類の流出の恐れがある。 2. 流出した油類が下水道に流出する事が考えられる。
		予防策	1. 窓ガラス等の事前割れ防止準備。 2. 管理倉庫にて一括管理し流出防止を行う。	1. 箱に蓋を取付け、倒壊しても中身が流出しない様にする。 2. 取外し可能な状態で固定をして倒壊を防止する。
		対応策	1.2. 社内のベニヤ板、ビニールシートなどで流入、流出、飛散を防ぎ、修理業者への連絡により補修対応する。 従業員に使つかない様に連絡し、流出防止用のせき止めを依頼する。	1.2. 倒壊した箱を従業員により復旧する。雨水路への流入を防ぐため土嚢や吸収マットによりせき止める。 可能であれば社内バキュームなどで回収・隔離する。
4	人為的事故発生時	緊急事態	1. 油交換作業時に油缶の転倒による流出の可能性はある。	1. 廃棄物処理中に処理箱よりこぼれる可能性がある。
		予防策	1. 簡単に作業が出来る様、別容器に小分け小分けにして交換する。	1. 箱の中身を常に7分目程度で管理し処理を行う時にこぼれない状態にしておく。
		対応策	1. 転倒させた場合はすぐに缶を戻し、流出をせき止める。また1人で対応できない場合は周囲の人員や事務所へ連絡し悪化する前に回収、補修を実施する。	1. こぼれや溢れが発見された場合は速やかに別容器に移設し流出、漏えいしない場所保管する。溢れそうな状況が発見した場合は事務所に業者への回収依頼の連絡を行う。

5. 環境活動の取り組み結果と評価

(緊急環境訓練の実施状況)

・第10回 環境時の緊急事態における訓練

実施日 2024年9月2日

実施内容 地震発生で機械の倒壊等により油漏れ発生時の処置対応
直接油を流す事は出来ない為、水を油に見立てて流し
土嚢で雨水路等に流出することを防ぐ訓練を実施した。

今回は図上訓練も取り入れ、環境災害が発生した際に
改善すべきことや優先すべきことを話し合った。

参加者 安全衛生委員会・自衛消防隊員（別途参加者名簿による）

使用したもの ペール缶 3個（水60ℓ） 土嚢 3袋



・結果と改善すべき課題

毎年委員会メンバーの入れ替えがあるため、今回も新規メンバーによる訓練を行った。結果は良好であり訓練の趣旨と手順を理解してもらった。今回、近年防災で推奨されている「図上シミュレーション」を実施した。各担当者が、今後どうしたら改善できるか自身の思った考えを述べて、話し合うことができた。

一定の成果が見られたため翌年度も実施を計画したい。

・次年度の取り組み予定

第11回環境訓練の計画

次回日程 2025年度9月予定

実施内容 9月の避難訓練に合わせて安全衛生委員・自衛消防隊員による
緊急時の消火機器の使用や油流出防止の吸収マットや環境にやさしい
今回実施した土嚢による壁積みを次回も実施する。

今回実施した「図上シミュレーション訓練」をこれからも継続し
個々が日頃からもっている意識を打ち合わせや討論を交えて集約し、
今後の改善に生かしたい。

準備するもの 土嚢 3袋 オイルフェンス（吸収マット） 2枚

ペール缶 3個（水60ℓ） 水消火器 4台 その他

参加予定者 安全衛生委員会・自衛消防隊員